

平成三十年度 第十二回「宗祇白河紀行連句賞」応募用紙
【応募者連絡先】 ※作品集を送付するため、必ず連絡先を記入して下さい。

住所 〒
所属(連句団体名又は学校名)
学年
氏名(本名を記入のこと) (ふりがな)
電話番号

◎ 第三句が脇句の詠人と異なる場合は、記入して下さい。

住所 〒
氏名(本名を記入のこと) (ふりがな)
電話番号

【発句(春)】 次のうちから一句選び、発句欄に記入して下さい。

① いまひと重月に色添ふ霞かな
(春の月を眺めていると、うれしいことに霞が、月の風情をもう一段増してくれる。)(宗 祇)

② 奉祝や蘿月庵へと花垂れ
(春の月を眺めていると、うれしいことに霞が、月の風情をもう一段増してくれる。)(狩野康子)

蘿月庵：茶人としても知られている白河藩主松平定信公が生前愛用した茶室。白河市の南湖神社境内に現存する。蘿月とは蕪の葉の間から見える月のこと。

③ 早春の声なき声や戌辰の碑
(狩野康子)

戌辰の碑：戌辰戦争白河口の戦いで最大の激戦地となった稲荷山に建立された碑。戦死した東西両軍約千名の名が刻まれている。今年は戦争から150年の節目に当たる。

【応募句(三つ物)】

選んだ発句に続く、脇句(七七)と第三(五七五)を応募してください。脇句は発句と同季(同時同場)で詠みますが、第三は自由です。いろいろな素材を詠み込んで広がりのある世界を作ってください。
※必ずふりがなを付して下さい。

第三	脇句	発句	応募句	応募者名
	ふりがな	発句番号 ※右の三句の中から選んでください。 ①		
		いまひと重月に色添ふ霞かな		
	ふりがな			

第三	脇句	発句	応募句	応募者名
	ふりがな	発句番号 ※右の三句の中から選んでください。 ①		
		いまひと重月に色添ふ霞かな		
	ふりがな			

※詠人が脇句と異なる場合は記入して下さい。

白河 太郎

【記入例】